

平成 30 年 8 月 23 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370539

研究課題名(和文) 訓点語彙の意味論的研究－文脈付き訓点語彙コーパスの作成－

研究課題名(英文) Semantic study of vocabulary of reading Japanese in Chinese

研究代表者

松本 光隆 (MATSUMOTO, Mitsutaka)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：20157382

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：平成26年度より平成29年度までの四年間、科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号26370539「訓点語彙の意味論的研究－文脈付き訓点語彙コーパスの作成－」(代表者・松本光隆)の課題の元に、次の研究に従事してきた。

1、身延山久遠寺蔵本朝文粹、金沢文庫本群書治要、高山寺聖教、石山寺聖教の訓読文作成。2、身延山久遠寺蔵本朝文粹、金沢文庫本群書治要、高山寺蔵聖教の訓読語用語集の作成。3、漢文訓読語コーパス作成への問題点の整理

研究成果の概要(英文)：Four years from FY2014 to FY2017, Grant-in-Aid for Scientific Research (C) Issue No. 26370539 "Semantic study of learning vocabulary - Creation of a context-based learning vocabulary corpus" (Representative (C) Mitsutaka Matsumoto) I have been engaged in the following research under the task of.

1, Preparation of Kundokubun(訓読文) on Minobusan-Kuonji(身延山久遠寺) Hontyomonzui(本朝文粹), Kanazawa-Bunko(金沢文庫) Gunjyochiyo(群書治要), Kozanji Syogyo(高山寺聖教), Ishiyamadera Syogyo(石山寺聖教). 2, Create a Kundoku(訓読語)-glossary on Minobusan-Kuonji(身延山久遠寺) Hontyomonzui(本朝文粹), Kanazawa-Bunko(金沢文庫) Gunjyochiyo(群書治要), Kozanji Syogyo(高山寺聖教). 3, Arrangement of problems for creating Kanbun-Kundokugo(漢文訓読語) Corpus.

研究分野：日本語史

キーワード：訓点 語彙 意味論 漢文訓読語

1. 研究開始当初の背景

漢文訓読語の語彙論意味論の研究についての実証性の高い研究は、築島裕『平安時代の漢文訓読語につきての研究』(昭和38年、東京大学出版会)に始まると考えて良いが、爾来、漢文訓読語研究も、語彙論意味論、特に、意味論の分野での研究は十分な深化を見せなかったと評価される。

平安鎌倉時代語の語彙論意味論は、和文資料のコンピュータを利用した形態素解析の進展に伴い、特に平仮名交じり文言語の語彙論意味論研究は飛躍的な発展を遂げて来た。しかし、言語資料の量が和文資料に比較しても格段に多い漢文訓読語、その中核となる訓点資料言語の語彙論意味論研究にはほとんど手が着けられていないのが現状で、大量の研究対象資料の分析研究には、漢文訓読語コーパスの作成は、不可欠の状況である。

漢文訓読語コーパスの作成の方途を見出すことが、学界の要請であると考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、一文で記せば、漢文訓読語の語彙論意味論研究に資する漢文訓読語コーパスの作成を目指す事である。

ただし、平安鎌倉時代の和文資料のコーパス作成と比べて格段に困難な状況があつて、漢文訓読語コーパス作成は一筋縄では行かぬのが実情である。コーパス作成に至るまでの各段階に山積する問題を一々明確にあぶり出し、いかにクリアするのかの方法を具体的に検討するのが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

上記2の研究目的を達成するために、平安鎌倉時代の古点本の原態から訓読文の作成、訓読文の作成も従来行われて来た訓読文表記法を如何に改編してコンピュータによる形態素解析に掛けるのが研究上の高効率を生むのかの検討の道筋を辿ろうとした。

更に、続いては実際に漢文訓読語の語彙コーパスの実作の方途を探る方向に進む方向を探ろうとしたのが本研究である。

次の4において詳述するが、実際の語彙コーパスの実作を手掛ける前の研究基礎資料の用意の段階において並々ならぬ障害のある事が明確になったので、研究は形態素解析に掛けるための古点本の訓読文を如何に用意するのかの研究に集中する事となり、具体的には、以下の方法で、科学研究費補助金による研究期間内での研究を展開する事となった。

まず、従来の古点本の訓読文の作成を行った。

次の段階として、研究成果の充実を予め狙うためには、形態素解析に掛ける訓読文は、総ルビの訓読文であらねばならぬので、総ルビの訓読文の作成を目指す事として研究展開をしたが、総ルビの訓読文作成のために訓点資料の原態において基本的には片仮名加

点の用例を、該当語が含まれる一文を資料から抜粋した電子データ形式の用例集の作成を行った。

一々の資料の全語彙の採取された漢文訓読語コーパスを狙つての本研究であるが、この付訓用例集は、語の見出しと共に一文の文脈付きでの使用の具体を掲げたもので、この資料集にタグを埋め込めば、そのまま漢文訓読語の用語コーパスになり得る電子データとなっている。

研究期間中に文脈付き漢文訓読語用例電子データを作つたについては、この資料集の確例収集により確例を無点箇所での推読のために原訓点資料に返して行く事を考えて、かかる方法を採用したものである。

具体的方法については、次項4にも説いたので、ここでは簡潔なる事に従う。

4. 研究成果

以下、前項との重複があり、諄いものとなるが、研究成果に至るまでの過程を含めて記すことにする。

築島裕博士は晩年、汲古書院から「訓点語彙集成」をものされた。この「訓点語彙集成」は、築島博士が生涯に収集された訓点資料語彙を出典と共に一覧表示されたもので、漢文訓読語史研究においては画期的な業績である。現在編まれている古語辞典は、語義記述と古典語中の用例を掲げるのを基本として、各々個性的な編纂を目指しているが、古典語中の用例は、現存資料の初出例を掲げるのが通例となっている。

訓点資料中に出現する語の用例採取には、困難を伴つて来た。訓点資料には、漢籍、国書と仏書があるが、漢籍と国書は、現存資料の絶対量が仏書に比べて少なく、近代以来、特に平安鎌倉時代の現存資料は、複製に依つて刊行されたものが多く、現存資料の全体を見渡しての用例採取が比較的容易であつたと思われる。一方、仏書については、平安時代の資料に限つても数千点に上るもので、この内の複製刊行は、微々たるものであつた。仏書に限つたことではないが、数千点の内、複製刊行された仏書の、複製に選定された意図は様々で、複製刊行の資料がことばの資料として価値があるのか否かは、二次的な問題としか捉えられない。漢文訓読語史研究を専門とする者においてさえ、多くの資料を見られぬままで生涯を終える。研究者個人の閲覧を許された資料は、平安時代の現存数千点の極一部であるのが普通である。かかる状況においての築島裕博士の「訓点語彙集成」は、正に偉業と言うべきで、この「訓点語彙集成」に依つて、古語辞典は、その編纂を根本的に見直すべき必要に迫られたと言うべきである。

ただし、「訓点語彙集成」に記載されているのは一語の語形と出典資料とであつて、例えば古語辞典に利用するにしても語義記述のためには文脈が必要であるし、古語辞典内

にあることばの使用例として用例を引用するにしても文脈については一々元の訓点資料に立ち返る必要がある。つまり、「訓点語彙集成」は、語の存在を確認できてそれを利用するには、「訓点語彙集成」を参考に、原典の文脈に返してやらねばならない。

一方、古語辞典とは別に、訓点資料の漢文訓読語研究を深めることのできる一つの方途に、訓点資料コーパスの作成が考えられる。平安時代の場合、コーパス作成は、和文において先行して、幾多の成果を生んできているが、訓点資料においては、緒に就いたばかりの段階である。

古典語コーパスは、日本語研究のためには資料全文の全語を対象に形態論的情報のタグを埋め込んだデータ作成作業が基礎となるが、訓点資料コーパスにおいては、こうしたデータ作成の前段階として基となる本文をいかに整えれば良いかと言う大きな問題が横たわっている。

国立国語研究所で開発されたコーパス検索アプリケーション「中納言」は、『日本語歴史コーパス』に対応したオンライン検索ソフトで、その『日本語歴史コーパス』は、小学館『新編日本古典文学全集』を底本として作成されている。『新編日本古典文学全集』を元に平仮名漢字交じり文とした本文を基礎としたもので、その形態素解析はコンピュータを利用して、大量の言語資料の処理が実現されている。

ここで正直に告白すれば、研究代表者松本は、かかる過程、即ち、『新編日本古典文学全集』の本文が、どのような過程で基礎資料となり、その本文をコンピュータを利用して形態論的情報を付加するための辞書を利用して、どのようなプログラムに依って形態素解析をされてタグが埋め込まれているのかを充分には理解できては居ない。ただ、訓点資料のコーパスを作成して、解析辞書を整え、形態素解析を行う前に、基礎となる訓点資料の日本語資料（訓読文、即ち漢字仮名交じり文）を作成して、コンピュータ上でかなりの高い確率で形態素解析を行ってタグを埋め込む必要があるだろう。

以下の記述にも後に述べるように大きな問題が存して居るのであるが、コンピュータ上の解析を考えずに、手作業でのタグ付きデータを作成して、訓点語彙コーパスを地道に作る道もあるだろうが、先ず、平安時代の訓点資料の言語量は、和文の言語量の比ではなくて、鳥瞰的な語彙分析を行うためには、形態素解析にコンピュータを用いなければ、およそ実現は不可能であると認められる。

更に根本に関わる問題は、形態素解析に掛ける本文を如何に作成するかと言う事である。

和文の場合、現行活字本文を使うとして、活字本文の底本の表記に戻すには、理論的には活字本文の凡例に従って、活字本文から遡行して元の平仮名漢字交じり文に復元する

ことが可能である。これを基にすれば、コンピュータ上での形態素解析が可能となる。

一方、訓点語彙コーパス作成の基となる訓読文の現行の一般的表記は、極めて複雑な表記法を採る。訓点資料の特性に起因するもので、漢字・片仮名・平仮名を使い、諸種の括弧やスラッシュ・庵点、ポイントを下げ右寄せにした注記、ルビなどが加えられる。その理由は、訓点資料原本に、漢字本文と片仮名のルビ、ヲコト点が使用されているのを文字種に依って表現しようとしてされているためである。括弧などの記号が多用される原因は、全ての漢字に読みが全音節表示されている訳では無く、また、原本に諸種の符号が加えられるためである。諸種の注記が使用されているのは、原本には、声点、再読字などが出現するからであって、ルビが用いられるのは原本にルビがあるからである。

かかる複雑な表記法を採る理由は、例えば、片仮名の付訓は、一音節一音節の復元がある程度の確度を持ってなされるのであるが、ヲコト点の場合には片仮名に比べて推読の度合いが高い。括弧などの符号は訓読文作成者の推読を表示して、片仮名・ヲコト点などによる語形、音節などよりも更に推読の度合いが高い。これらを表示するために工夫された表記法である。

コンピュータ上での形態素解析を想定した場合、これらの複雑な表記法を単純化して漢字片仮名平仮名交じり文として解析に掛けるとしても、形態素解析のための辞書が膨大なものになる。また、訓点資料の言語資料としての特性は、漢字・片仮名・平仮名に依って峻別されるところや各種の表記法に依って表記仕分けられるところにあるのであるから、コーパスから検索され一覧されるデータは、本来の訓読文の表記か、それに準ずるものとならねばならないだろう。

以上には、今一般に行われている訓点資料の訓読文からコーパス作成のためにコンピュータ上で処理される本文の形式について述べたが、それよりももっと根本に問題となるのは、今一般に行われている複雑だと思われる表記法に従ったものでも構わないが、この訓読文の全語を対象にしたコーパスを作ろうとした時、必須となるのは、全漢字および全読添語の語形・訓読法が明確であることである。即ち、総ルビの訓読文を用意する必要がある。

最近でこそ盛んではないが、訓点資料の総ルビの訓読文は、嘗て、その成作が試みられた事がある。総ルビの訓読文は、漢文における付訓字と非付訓字との加点法の質的差異を帰納する目的に発したようであるが、例えば、同一古点を複数の研究者が訓読文を作成した総ルビではない複数の訓読文間にさえ異同が存して整合しない事実からの反省に依って、次第に衰えてしまった研究史が存する。爾来訓読文の作成は、表記法も含めて文脈付きの確例を学界に提供する方向に進ん

で来たものと思われる。

確かに、古典語辞書や論文に文脈付きで引用しようとした場合、訓点資料の語例として引くことのできる用例は、全訓付訓の例や確度高く語形が推定できる用例であることは確かである。しかし、訓点資料の語彙分析のために訓点語彙コーパスを利用するとなると、一訓点資料の全語を対象としなければならない。即ち、訓点語彙コーパス作成のための第一段階の本文としては、総ルビの訓読文を用意する必要がある。

研究史において一度試みられながら不完全さの反省に基づいて後退を余儀なくされた総ルビの訓読文の再度の作成に向かうには、然るべき方法論を見出さねばならない。

漢文訓読語の語彙論意味論の研究のために訓点語彙コーパスを掲げたが、そのための本文の用意に極めて大きな問題が存して、初歩的な段階で総ルビの訓読文の用意にさえ問題があることを述べてきた。目指すべきは一訓点資料の全語を対象にした訓点語彙コーパスであるが、一訓点資料の全語を対象とせずとも、コーパス作成には確例を対象にタグを付して作り上げる道があると思われる。

本研究中に作成して編んだのは、金澤文庫群書治要の文脈付きデータ集である。訓読文一文と共に、その中に現れた確例を一文の訓読文用例の後に見出し語（活用語は終止形）を掲げて示したもので、この見出し語にタグを付して、見出し語の検索と一文の訓読文を表示できるプログラムを組めば、使い勝手は良くはないが、訓点資料の確例についての訓点語彙コーパスが出来上がる訳ではある。しかし、一訓点資料の全語を対象にした訓点語彙コーパスを想定して比較すれば、漢文訓読語の語彙論研究、意味論研究での利用価値は、天地の差があるものと理解されるであろう。

既に、広島大学図書館の学術情報リポジトリに PDF 形式で UP したて公開ものは、一訓点資料の総ルビの訓読文の作成を目論んで成作編集したものである。総ルビの訓読文を作成するためには、第一段階の訓読文を作成し、確例を取り上げての語彙資料を作り上げた上で、その語彙資料に基づいての第二段階の総ルビの訓読文を作成し、その語彙資料に基づいた次の段階の訓読文を作り上げて行くというルーチンワークを繰り返して精度を高める方法に従った積み重ねに依る事を想定しての公開資料である。

即ち、急務なのは訓点資料の資料整備であると言って良からう。

本研究を手掛け始めた段階で目論んだ研究全体を四年間で果たして、訓点語彙コーパスを作り、研究期間後に、更に視野を拡げて漢文訓読語コーパスを作ろうとした意図の前半部分の更に基礎的な研究に集中した成果となったが、時間が掛かる研究とはなろうが、研究の導入段階での踏み出しは成果として行えたものであると考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 10 件)

- 1) 李 玉テイ;王 徳俊,金澤文庫本群書治要訓点用語集稿(一),広島大学日本語史研究論集,査読有,第 1 号, 2015,pp92~163
- 2) 松本 光隆;大久保 綾子;李 玉テイ;曹 亜瓊;王 暄;王 徳俊;李 蘇洋;戴 玉潔;陳 翰柯;黄 ケイ;岩下 邦子;白 景皓;陳 博林;孫 瑾;薛 東東,身延山久遠寺藏本朝文粹訓点データ集稿(一),広島大学日本語史研究論集,査読有,第 1 号,2015,pp79~91
- 3) 大久保綾子,訓点資料語彙の電子データ提供に向けての実践的試み:宮内庁書陵部蔵『大乘本生心地観経』巻第八院政期点仮名点箇所訓読文用例集,広島大学日本語史研究論集,査読有,第 1 号,2015,pp49~78
- 4) 松本光隆,平安時代の天台宗山門派と天台宗寺門派 寺門派の学問的アイデンティティとは,広島大学日本語史研究論集,査読有,第 2 号,2016,pp2~10
- 5) 李 玉テイ,六国史に於ける「請」の用法,広島大学日本語史研究論集,査読有,第 2 号,2016,pp11~19
- 6) 李 玉テイ;王 暄;孫 瑾,金澤文庫本群書治要訓点用語集稿(二),広島大学日本語史研究論集,査読有,第 2 号,2016,pp147~246
- 7) 王 暄;高田 哲治;陳 翰柯;戴 玉潔;孫 瑾;陳 博林;孟 津舟;張 口;王 帥予,身延山久遠寺藏本朝文粹訓点データ集稿(二),広島大学日本語史研究論集,査読有,第 2 号,2016,pp247~265
- 8) 大久保 綾子,訓点資料語彙の電子データ提供に向けての実践的試み:高山寺蔵『蘇磨呼童子請問経』巻上保延三年点仮名点箇所訓読文用例集,査読有,第 2 号,2017,pp55~96
- 9) 松本 光隆,東寺観智院蔵金剛頂瑜伽中略出念誦経保安四年点について,広島大学日本語史研究論集,査読有,第 4 号,2018,pp33~41
- 10) 王 暄,『注好選』に於ける「曰」と「云」について,広島大学日本語史研究論集,査読有,第 4 号,2018,pp1~18

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 2 件)

- 1) 松本 光隆,汲古書院,平安鎌倉時代漢文訓読語解析論,2017,770
- 2) 松本 光隆,私家版,漢文訓読語語彙論意味論序説 - 資料篇(1) -,2018,244

6 . 研究組織

(1)研究代表者

松本 光隆 (MATSUMOTO,Mitsutaka)
広島大学・文学研究科・教授
研究者番号： 2 0 1 5 7 3 8 2

(4)研究協力者

大久保 綾子 (OHKUBO,Ayako)
李 玉テイ (Li,Gyokutei)
曹 亜瓊 (SO,Akei)
王 暄 (OH,Ken)
王 徳俊 (OH,Tokushun)
李 蘇洋 (Li,Soyo)
戴 玉潔 (TAI,Gyokuketsu)
陳 翰柯 (CHIN,Kanka)
黄 ケイ (KO,Kei)
岩下 邦子 (IWASHITA,Kuniko)
白 景皓 (HAKU,Keiko)
陳 博林 (CHIN,Hakurin)
孫 瑾 (SON,Kin)
薛 東東 (HEKI,Toto)
高田 哲治 (TAKADA.Tetsuji)
孟 津卉 (MO,Shinki)
張 口 (CHO,Ro)
王 帥予 (OH,Suiyo)